

# Iターン市民の一人として



おちや 小千谷市長(新潟県) やつい やすお 谷井靖夫  
Yasuo Yatsui

## 私もIターンです

小千谷市は新潟県のほぼ中央部分にあり、南に山間地、北に越後平野へ続く地形で、信濃川が市街地の真ん中を流れています。人口は3万8000人ほどで、県内20市では17番目の規模となります。産業構造は第2次産業が主力で、次いで第3次、第1次の順となります。製造業では鉄工・電子、食品関係が盛んです。近年、冬の積雪は山間地で4m近く、市街地でも2mを超えることもあります。市民は雪との戦いに明け暮れますが、それだけに5月の連休ごろ、野山から雪も消え、樹木が一斉に芽吹くころの美しさを見ることができるのは、例えようのない



地域行事も気楽に参加する筆者(中央)

い嬉しさ楽しさでもあります。

このような市に住む私ですが、実はIターン市民です。関西に本社を置く企業の関係会社がこの地にあり、その責任者として赴任し5年間を経て定年を迎えました。その後の人生をどう過ごすかと考えたとき、小千谷市の住みよさに惹かれて、ここに終の棲家を作り市民となった次第です。

こんなに雪が多い所になぜ住もうと思ったのか、と今でも市民の方から聞かれることがあります。魅力を数え上げればいくつもありますが、やはり他所では得られないのは、心豊かな人々が作る心安らかな生活環境だと思っています。

もちろん、定住を決めた時は、将来市長を務めることになるなどとは夢にも思いませんでした。その後何年か経ったある時、思いがけなくも市長選に立つことを強く薦められ、意を決した結果、今日に至った次第です。

## 私を理解してもらうために

Iターンの市民が市長になったからと言って市政の停滞は許されるはずがありません。何はともあれ、私がなくてはならないと思ったことがあります。それは、私という人間を良く理解してもらうことです。市長が市民の皆さまに協力をお願いする場合がたくさんありますが、



地域行事で市民との談話を楽しむ筆者(中央)

なぜ市長がそう言っているのか、その基本的な考えがどこにあるのかを良く知ってもらうことが大事だと思ったのです。これは、私が民間企業にいたころの5年弱の海外勤務経験から学んだことです。言葉、生活習慣、思考方法が異なる人々と円滑に仕事をするには、まず自分自身がどんな人間か理解してもらうことが、何をさておいても大切なことだと思うのです。

私を理解してもらうためにしたこと、が、いくつかあります。毎月1回、市の広報紙(市報)に「こんにちは!市長です」と題するコラムを載せてもらうことにしました。このコラムは700字前後の文章と写真から構成されており、固い内容にならないよう随想風になっています。し



「市民と市長の懇談会」での筆者(右)

かし、市報紙面の貴重な一角を使っているわけですから、取り留めなく何を書いても良いとは言えません。自分たちの暮らすこのまちを少しでも良くするためには、私はこう考えますが皆さんはどうでしょうか、というような提案をする内容にしています。時には、私の家族の出来事も正直に書いたりもします。おかげさまで、市報が届けば真っ先に読むよ」と言ってお話ができる方も多く好評です。私のコラムを読むことが、市報全体によく目を通してもらえらるきっかけにもなればと思っています。

市民の皆さまと膝を交えてざっくばらんにお話ができる会に、できるだけ多く出席するように心掛けています。市の企画として、年に10回弱の「市民と市長の懇談会」と称する、いわゆるタウンミーティングを毎年行っていますが、このような会ではどうしても市民対行政という雰囲気消えませんが、それよりも、い

ろいろな団体の懇親会や、地域の行事にご招待を受けた時に出席し、お互いに肩肘張らない雰囲気でお話をした方が、より深い相互理解ができます。このような席で、市政運営上大変重要なヒントをいただくこともあり、実際、市の事業展開の中で大きな成果につながった例もありました。私の場合、こんな機会が年間150回以上はあります。

## やはり健康第一

酒席の多い日々ですが、他の仕事とぶつかるなど物理的に不可能でない限り、すべてのご案内に配慮することにしていきます。そうなるに注意しなければならぬのは健康です。どうしても飲み過ぎ、食べ過ぎになりますから注意が必要です。健康を損ねると自身が苦しむことはもちろんですが、自分が置かれた役目柄、周囲の人にも多くの迷惑をかけてしまうことを考えなければなりません。

私の健康法はいろいろありますが、そのうちのひとつが山登りです。私の家の近くに、頂上から高384mの山があります。私の目標は、毎週々々、わが家とこの頂上の間を往復することで行きませんが、真冬でも真夏で



登山で心身の健康維持

も機会があれば登るように努めています。実は、何年前までこの山に登る人はそれほど多くはありませんでした。しかし、それほど高い山ではないのに、頂上からは360度の素晴らしい眺望が楽しめるばかりではなく、春の目の覚めるような新緑やカタクリの群生、夏の山百合、秋の紅葉、冬の白銀の世界の眺めと、一年を通じて飽きることはない山ですので、市民の方にもたくさん登って欲しいと、先に述べた「こんにちは！市長です」で宣伝いたしました。今では年間を通じて1万人を超える方がこの山に来ていらっしゃるようです。足腰を鍛えていただいで、結果として市民の医療費用や介護費用の削減につながればとも願っています。私にとっては、登山の途中であれ市民の皆さんが、やあ、市長」と気軽に声を掛けて下さるのも楽しみになっています。